

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 2 7

開催地：八代市坂本町

平成 19 年 9 月 12 日（水）、八代市坂本町（会場：西部多目的集会施設）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

市内	16 名
市外	3 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（基本高水のピーク流量が）横石地点で 9,900m³/s とのことだが、荒瀬ダムが撤去されたら平均何 m³/s 流せるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本高水のピーク流量は、計画規模の降雨が発生した場合に流域から河道に流出する最大流量です。 基本高水のピーク流量は、洪水対策の目標とする流量として定めているものであり、荒瀬ダムの撤去によりその流量が変わることはありません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3,000m³/s 分の洪水調節が必要とのことだが、それについて具体的な説明がなかったがどのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものです。 洪水調節の方法など、具体の河川整備の内容等については、今後河川整備計画で定めることとしています。
<p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治水対策の中で、川幅を広げるとか嵩上げとかいろいろあったが、中流部の合志野地区では川幅を狭くする工事も行われている。狭くなった分だけ水かさが上がり、下流側・対岸は流れが急になり、その分、両脇の道路決壊も考えられる。何故そのような工事をしたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合志野地区の堤防については、対岸への影響も考慮し、極力堤防が河川に張り出さないように工夫した構造としているところです。 このような構造の堤防を採用することで、合志野地区の堤防整備に伴う球磨川の洪水時の水位への影響は殆ど生じないことを計算により確認していますが、今後とも、必要に応じ地域の皆様に対し、国としての説明責任を果たしてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・堤防を造る前に、まず危ないところを嵩上げしてから、川側に堤防を造るというようなことを考えながら行っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球磨川中流部での治水対策にあたっては、引き続き、堤防の整備等に伴う河川の水位への影響を極力少なくするよう、堤防の構造について検討していく考えです。
<ul style="list-style-type: none"> ・西部地区ではもう工事は何も実施しないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、深水川の合流点付近では3年連続で洪水被害に見舞われていることから、住民の方々の意向も踏まえつつ、深水川を管理している県と連携して、治水対策を検討していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・深水地区は洪水の度に浸かるが、それに対する配慮として今後の計画はどうなっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・深水川の合流点付近では3年連続で洪水被害に見舞われていることから、住民の方々の意向も踏まえつつ、深水川を管理している県と連携して、できるだけ早期に治水対策を検討していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時に荒瀬ダムから 7,000m³/s 流れたときに、家の前にある古 	<ul style="list-style-type: none"> ・樋管の操作については、樋管操作の方が内水と外水の状況を見

い水門がいつも開いていて逆流してくる。それにより、ひどいところでは、家の石垣のところにある田畑が2mくらい水没している。水門は洪水の時も開けておくべきなのか、検討の余地はあるのか教えて欲しい。

ながら操作されています。ご指摘の古田排水樋管(1号)は、熊本県管理となっており、報告会后に熊本県の方がご発言いただいた方と現地確認を行ったと聞いています。

【熊本県回答】

- ・八代市坂本支所と相談しながら、対応策を考えているところです。

【球磨川の環境について】

・現在の球磨川は、雨が降るたび長期間濁る。以前はすぐに澄んでいた。国土交通省としてどのように考えているのか。

・近年の台風による豪雨により山腹崩壊が発生して、大量の土砂が河川に流入するなどしたことが原因で、川の濁りが発生しています。この問題については、関係機関で情報を共有し、流域が一体となって総合的な取り組みを推進していく必要があると考えています。

・自分の小さい頃は日の前の球磨川はとてもきれいな清流で、鮎やハエなどの魚も多く、蛍も飛び交っていた。今は蛍も鮎もない状況である。今泉の上(かみ)や下(しも)は昔は流れが速かったが、今は流れない状況。国としてもこれらの問題を考えて欲しい。

・ご指摘のように、昔の球磨川の素晴らしい環境が今は失われていることに対して、国土交通省としても問題意識を持っています。今後、少しでも昔のよい環境を取り戻すことができるよう、地元住民の方々と連携しつつ、河川整備を進めていく考えです。

・(今の)遙拝堰が出来る前は、目の前の川でも鮎が捕れた。今は堰があるおかげで鮎が上って来ない。昔は砂利もあったが、今は泥が溜まっていることもあり、鮎の餌が無い。ウナギも蛍もいなくなった。昔の川、自然を取り戻すために、遙拝堰を開けて水がたくさん八代海に流れるようにしてもらい、四国の四万十川のような清流球磨川にして欲しい。

・遙拝堰には魚類が下流から上流に上ることができるよう、魚道が整備されていますが、川の流量が少ない時など、うまく機能していないことがあるため、今後、関係機関とも連携しつつ改善に努めていきたいと考えています。

・遙拝堰の魚道についてはうまく機能するように強くお願いしたい。

・遙拝堰には魚類が下流から上流に上ることができるよう、魚道が整備されていますが、川の流量が少ない時など、うまく機能していないことがあるため、今後、関係機関とも連携しつつ改善に努めていきたいと考えています。

・遙拝堰から上に3、4箇所赤土が流れているので確認して欲しい。遙拝堰は昔に比べ堰が高くなって水が流れていない。水位が高いので、土が水で重くなつて崩れる。遙拝堰付近では数箇所土が崩れている。下から矢板を打って土が流れないようにしたら崩れないと思う。よく護岸などを見て工事を実施して欲しい。

・報告会后、ご発言いただいた方と一緒に現地を確認させていただきました。ご指摘いただいた箇所については、河川巡視の際などに特に注意して状況を見つつ、今後の対応を検討したいと考えています。なお、道路の護岸部については、道路を管理する熊本県にもお伝えしました。

・昔のようにいつも水が流れ、土砂が流れていたら八代海の赤潮が発生しないかもしれないと思う。

・ご指摘のような土砂の適切な管理にあたっては、河川の源流部である山地、河川、海まで流域一貫で対応していく必要があることから、河川管理者だけでなく、熊本県など関係機関と協力して取り組んでいきたいと考えています。

・球磨川漁協の業務報告の資料によると、球磨川河口産の遡上鮎がH13年で304万匹いたが、今年は48万匹に減少している。

・遡上するアユが減少していることは認識しています。国土交通省では、今後川づくりを進めるにあたっては、関係機関と連携して産卵場となる瀬の再生等にも取り組むなどアユなどの魚類の生息にも配慮することとしています。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・遡上鮎については、遥拝堰の魚道はあまり関係無いと思う。遡上鮎をいかにして多くするかについて、全国各地の漁協が取り組んでいる。長良川や和歌山の紀ノ川などでは河口堰には人口産卵場を兼ねた設備を持っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省では、今後川づくりを進めるにあたっては、関係機関と連携して産卵場となる瀬の再生等にも取り組むなどアユなどの魚類の生息にも配慮することとしています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・球磨川においても、自然保護協会の調査で、荒瀬ダム上流で生まれた稚鮎は河口にはたどりつかないとの報告もある。極端に言えば、遥拝堰より下流で生まれた稚鮎しか来年の遡上鮎にならないと思っている。取水口に吸い込まれた稚鮎をいかに川に戻すかという具体的な例もあると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省では、今後川づくりを進めるにあたっては、関係機関と連携して産卵場となる瀬の再生等にも取り組むなどアユなどの魚類の生息にも配慮することとしています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、鮎の放流に頼るのではなく、自然に上ってくる鮎を育てていくことが大切。漁協としても協力をおしまないので、国土交通省としても鮎に配慮した整備を行い、遡上鮎を増やして欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省としましても、川を遡上するアユ等の重要性を認識しています。今後とも、漁協の方々など関係機関と連携して産卵場となる瀬の再生や魚道の改良等にも取り組むことを考えています。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・昔は鮎やハエが捕れていて楽しかったが、今は捕れない。外来魚がハエなどの卵を食べることで減っているのではないか。また、カワウが増え鮎などの魚を捕って食べることも原因ではないか。これらを駆除する方法について、何か検討しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり、球磨川水系では近年、外来生物等の生息・生育が確認されています。外来生物等は在来生物への影響が懸念されることから、関係機関と連携し、適切な対応を行っていく必要があると考えています。 |

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。